

日本体育協会

総合型地域スポーツクラブ公式メールマガジン

〈連載〉東日本大震災被災地 応援情報

岩手県内の総合型クラブの取り組み

Q1 岩手県内にある総合型クラブの活動状況について、直近1年間でどのような変化がありましたか？

A. クラブ活動の再開や会員数が復調されてきました。

平成24年度まで	平成25年度から
○沿岸地域で新たに総合型クラブが設立されました（4クラブ）。	○toto助成事業等を活用して本格的な活動再開を行っているクラブが増えています。
○クラブが単独で事業を実施していました。	○関係機関と連携した事業展開や事業の多様化が見られてきました。
○震災による倒壊等により活動場所が限られていました（施設がない）。	○同様（27年度以降に施設が建設されていく計画です）
○震災に伴い会員数が減少していました。	○震災以前の会員数に復調しています。

Q2 岩手県内で支援活動を行っている総合型クラブや岩手県外から支援活動を行っている総合型クラブ等について、直近1年間でどのような変化がありましたか？（支援内容の変化等）

A. 交流事業等の人的な支援が継続されています。

平成24年度まで	平成25年度から
○被災地のクラブ（特に沿岸部のクラブ）が県内外の地域を訪問しての交流事業を行っていました。	○被災地のクラブがクラブの地元で県内外のクラブ等を受け入れての交流事業が行われています。
○金銭的な支援（義援金等）や物資の支援が主でした。	○金銭的な支援はなくなり、交流事業等の人的な支援が継続されています。

Q3 岩手県内の被災地や総合型クラブが復興していくために、今後求められることは何でしょうか？

A. 再開した事業の継続や仮設住宅を出られた方々への支援活動が必要です。

平成24年度まで	平成25年度から
○「応急仮設住宅」や「見なし仮設」に居住している方々への支援活動を行っていました。	○仮設住宅を出られた方々に対する支援活動が必要です。
○停滞していた事業の再開を行っていました。	○再開した事業の継続や地域住民のニーズ・参加者の掘り起こしが必要です。

○人が集う場づくりを行っていました。

○人が集う場づくりから「地域コミュニティ」づくりへと発展させる必要があります。

○体を動かす機会の提供を行っていました。

○体を動かす機会の提供を継続するとともに、体力低下等の課題に取り組む必要があります。



(岩手県クラブアドバイザー 伊藤 啓太)